

世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる 連続リレー講義

産業界・官界のトップランナーがオムニバス形式で講義をします。

今、企業でどんな人材が求められているのか？

学生に何を身に付けてほしいのか？

土曜の午後を、貴方のキャリアアップの時間に充ててください。



総合科目（学士基盤科目）・総合科目Ⅲ

2019

大学院共通科目

世界に挑む産業界トップリーダーによる 大学院アドバンスト・ ディスカッションコース

産業界のトップランナーが、大学院生を対象にディスカッションを通して
社会人の基礎力として、グローバルに考え行動するために重要な
さまざまな能力を育成します。



JAPICとは

一般社団法人日本プロジェクト産業協議会（Japan Project-Industry Council：JAPIC）は、1979年に産業界の複合組織として設立されました。以来、民間諸産業による業際協力の推進と産官学民の交流を通じて叡智を結集し、国民の安全安心と持続可能で豊かな社会づくりに向け、産業・経済・環境・資源・エネルギー、教育、国土・防災・都市・地域計画等、立国の根幹に関わる事項の研究並びに実現活動を行うことにより、国家的諸課題の解決に寄与し、日本の明るい未来を創生することを目的として活動して参りました。現在39業種約221社の企業、地方自治体、団体、NPO等から構成され、年間延べ1万人の実務家が公益的な立場から、1. プロジェクトの企画・実現、2. 政府関係機関への政策提言、3. 産官学民交流のためのプラットフォーム形成等活動を行っています。



JAPIC 会長
宗岡 正二
Shoji Muneoka
日本製鉄(株) 取締役相談役

開設趣旨

世界は、新興国の急成長、産業や市場のボーダレス化、ICT等、先端技術の進歩などにより、人材・情報・資金が国境を越えて行きかっています。同時に国は勿論のこと、国内の地域や都市の間でも競争が激化しています。このため、地球環境問題や資源・エネルギー問題など、世界にまたがるグローバルな課題に的確に対処していくことが求められています。また、少子高齢化と人口減少が急速に進んでいるわが国で、豊かな生活と産業の発展の鍵を握るのは、地方の活性化であり、地方で活躍し、輝く若い人材が求められています。

この激動の時代を生き抜く学生の皆さんが、「国際社会と地域社会に貢献する」という高い志を持って研鑽に励むためには、この講義で説く『社会基礎学』の習得が必要不可欠と考えます。本リレー講義では、社会基礎学とは何かを探索し、全学群生を対象に、今後の大学生活で身に付けるべき知識、教養、想像力や構想力向上をサポートします。

具体的には以下の6分野にプライオリティを置き、産業界・官界・政界のトップリーダーがリレー講義を実施、皆さんとともに考えます。

- ①「グローバル化と地域の日本のあり方」、②「政治・政策」、③「安全保障・憲法」、④「経済・産業」、⑤「資源・エネルギー」、⑥「世界／アジア」(順不同)

・1226151「社会基礎学Ⅰ－「グローバル化」と「地方の活性化」に貢献できる輝く人材の育成：世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる連続リレー講義」(総合科目(学士基盤科目)として春学期開講)

・1G26031「社会基礎学Ⅱ－「グローバル化」と「地方の活性化」に貢献できる輝く人材の育成：世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる連続リレー講義」(総合科目Ⅲとして秋学期開講)

また、大学院生を対象に、産業界のトップリーダーによるアドバンスト・ディスカッションコースを開設します。最新の社会、国際、ビジネス等分野の課題を捉え、議論を行い、深く考察していきます。

- ・01ZZ515「世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる大学院アドバンスト・ディスカッションコースⅢ－テクノロジーとグローバルで開く未来」(大学院共通科目として春学期開講)
- ・01ZZ513「世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる大学院アドバンスト・ディスカッションコースⅠ－流動化する世界とこれからの日本」(大学院共通科目として秋学期開講)

【総合科目の開設目的】

総合科目(学士基盤科目)：初年次生が、大学という新しい学習環境に適応し、自律的にキャリア形成を始めることを支援する科目です。さらに、学問のあり方や自身との関わりについて、幅広く多様な視点から考えることにより、専門分野へ進むための確かな知的基盤を整えます。

総合科目Ⅲ：1・2年次における基礎、専門基礎教育と2・3年次における専門教育をベースに、社会で活躍する際に必要となる幅広い視野と学際的なものの見方、国際性及び社会適合性を涵養することを目的としています。

【大学院共通科目の開設目的】

大学院生が多様なキャリアパスや様々な社会的要求に対応できる柔軟性と選択性を身につけ、時代に即した社会の需要に対応できる「豊かで逞しい人間力」を強化することを目的として、「知識の教授のみに偏らない高度な大学院教育の実現」を基本方針に、高邁な意識や高い倫理観を醸成しつつ、さらに能力やスキルの向上に資する「大学院生の基盤能力の向上」を担保するために大学院共通科目を開設しています。

学生に期待するもの

講義のキーワードである、「グローバル化とは何か」、「日本国内におけるグローバル化とは」、「地域社会の発展に何が必要か?」、について理解し、様々な課題に対して強い関心と好奇心を持ち、グローバルと地方創生の時代に果敢にチャレンジし、活躍できる人材を目指すことを期待します。



グローバル化に対する筑波大学の取り組み トランスボーダー大学への挑戦



筑波大学
University of Tsukuba

《国際性の日常化》

- 「エリア・コモンズ」
 - ・英語対応可能なグローバル・スタッフを各支援室に配置
- 職員向け語学研修の拡充、TOEIC等受験費補助
- 外国人との交流の場を設置
 - ・Global Chat〈English〉〈Culture〉〈Multilingual〉を開催し、教職員・学生（外国人・日本人）が自由におしゃべり
- 教職員のグローバル化
 - ・「英語ができる」ではなく、「グローバル化」の観点でものを考える力。

《グローバル人材育成》

- 学生海外渡航支援
 - ・「はばたけ! 筑大生」
- グローバルヴィレッジの設置
 - ・従来の学生宿舎（留学生・日本人学生の混住型）に加えて、平成29年度、新たに国際化推進を目的としたシェアハウスタイプの学生宿舎（グローバルヴィレッジ）を設置。
- グローバル人材育成推進事業／大学の世界展開力強化事業に基づく人材育成【採択事業】
 - ・GGJ（H24）
 - ・世界展開力：欧州（H23）、アセアン（H25）、ロシア（H26）、中南米（H27）
 - ・スーパースーパーグローバル大学創成事業（H26）
- 2学期6モジュール制
 - ・Cモジュール（7月中旬～8月上旬）を活用した短期海外留学



《海外大学との連携》

- Campus-in-Campus
- 海外オフィス設置（12ヶ国・地域）
- ジョイント・ディグリー／デュアル・ディグリー
- 大学間協定（H31.3.1現在）
 - ・71ヶ国・地域及び国際連合大学と大学間交流159協定、部局間交流224協定、合計383協定
- 語学研修
 - ・グローバル・コミュニケーション教育センター（CEGLOC）実施
- 英：オックスフォード大学、独：バイロイト大学、露：サンクトペテルブルク大学等

《入試改革》

- IB特別入試
- 海外教育プログラム特別入試
- グローバル入試

《研究成果の情報発信》

- Tsukuba Global Science Week (TGSW)
筑波大学ならびに筑波研究学園都市における最新研究のショーケース。
毎年9月に、世界30か国、100を超える研究機関から脳科学から芸術まで様々な領域の研究者を招いて開催。

《産学連携》

- つくばグローバル・イノベーション推進機構（つくば国際戦略総合特区等）
- JAPIC（Japan Project-Industry Council）との連携
 - ・連携講座の開設

《海外同窓会》

- Tsukuba Alumni Network (T-Net)
 - ・主に海外に居住する筑波大学同窓生のネットワーク強化を目的として開設された「つながりの場（プラットフォーム）」



春AB 1226151

社会基礎学Ⅰ－「グローバル化」と「地方の活性化」に

オーガナイザー教員 ● 五十嵐 浩也 (芸術系・教授、ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター長)

第1回

5/18

【土】

14:00~17:00

【導入講義Ⅰ】筑波大学におけるグローバル人材育成方針

徳永 保

Tamotsu Tokunaga

筑波大学 特命教授

プロフィール 1976年、旧文部省入省。文部科学省研究振興局長、高等教育局長などを歴任。2010年国立教育政策研究所長。2012年から筑波大学教授。1991年-1992年米国連邦政府・国立科学財団(NSF)に派遣。高等教育局長在任中にグローバル30(大学国際化拠点整備事業)などを立ち上げた。主な著書に『グローバル人材育成のための大学評価指標』(2011)などがある。

坪内 孝司

Takashi Tsubouchi

筑波大学教員 システム情報系教授／教育企画室長

プロフィール 1994年より筑波大学で教えている。本学出身。ロボット工学、特に自律移動ロボットやその関連技術の産業転用応用が専門。本リレー講義には教育企画室長として関わっている。神奈川県出身。主な著書に『はじめてのロボット創造設計』をはじめとする3部作があり、2009年に文部科学大臣表彰科学技術賞(理解増進部門)を受賞。趣味：古典西洋音楽の合唱やフルート、リコーダー演奏、庭いじり、ほかいろいろ。

【導入講義Ⅱ】連続リレー講義の意味・意義と狙い

三浦 潔司

Kiyoshi Miura

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会(JAPIC) 常務理事

プロフィール 1988年新日本製鐵(株)入社。厚板営業部に在籍し、建築・土木、造船、建設機械、産業機械等幅広い分野への営業を担当。2011年より5年間、(株)富士鉄鋼センターにおいて経営を担う。2016年より現職。

【パネルディスカッション】【第1部】

グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は?

【パネルディスカッション】【第2部】

学生は何を学び、何を身に付けるべきか?



吉村 麻央

Mao Yoshimura

バネリスト

石破茂栄議員 政策担当秘書

プロフィール 早稲田大学在学中、米コロンビア大学短期留学、政策担当秘書資格試験に合格。多くのアルバイトを経験し、卒業後、石破茂事務所勤務、在職22年。国務大臣防衛庁長官秘書官などを務め、公務にて海外出張を多数経験。陸上自衛隊予備自衛官として15年間登録(現在退職)。尊敬する人(?)はコダ。

中村 宏之

Hiroyuki Nakamura

バネリスト

(株)読売新聞大阪本社 編集委員

プロフィール 1991年慶應義塾大学経済学部卒、読売新聞東京本社入社。経済部、政治部、ロンドン特派員、ハーバード大学国際問題研究所研究員、経済部デスク、調査研究本部主任研究員などを経て2017年11月より現職。主な著書・共著に『御社の寿命』、『地元の力を生かす「ご当地企業」』(いずれも中央公論新社)など。

徳永 保

Tamotsu Tokunaga

バネリスト

筑波大学 特命教授

プロフィール 1976年、旧文部省入省。文部科学省研究振興局長、高等教育局長などを歴任。2010年国立教育政策研究所長。2012年から筑波大学教授。1991年-1992年米国連邦政府・国立科学財団(NSF)に派遣。高等教育局長在任中にグローバル30(大学国際化拠点整備事業)などを立ち上げた。主な著書に『グローバル人材育成のための大学評価指標』(2011)などがある。

三浦 潔司

Kiyoshi Miura

バネリスト

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会(JAPIC) 常務理事

プロフィール 1988年新日本製鐵(株)入社。厚板営業部に在籍し、建築・土木、造船、建設機械、産業機械等幅広い分野への営業を担当。2011年より5年間、(株)富士鉄鋼センターにおいて経営を担う。2016年より現職。

五十嵐 浩也

Hiroya Igarashi

コーディネーター

筑波大学教員(芸術系・教授)/ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター長

プロフィール GKインダストリアル・デザイン研究所、富士ゼロックスデザイン研究所を経て、筑波技術短期大学聴覚部デザイン学科、そのち現職。

講義概要 グローバル化とは何か?日本経済の諸課題を浮き彫りにした上で、安全保障、資源、エネルギーなど様々な観点から議論を進め、日本の進むべき未来を論じる。グローバル人材とは何か?産官学の第一人者たちが次世代のリーダーに必須となる素養について論じ、この講義で学んで欲しいことを明確化する。

貢献できる輝く人材の育成



未来の国土づくりを担う皆さんへ

森 昌文 Masafumi Mori

国土交通省 事務次官

プロフィール 1981年建設省入省。米連邦運輸省道路庁、土木研究所ITS研究室長、近畿地方整備局長を経て、道路局長、技監を歴任。入省後に「交通需要」に関する論文で博士号を取るなど交通全般にも明るい。雑誌のインタビューで「道路はセクシーでなければいけない」と発言するなど型にはまらない人柄。リラックスする時に使う「お香」にも詳しい。

講義概要 我が国の持続的な経済成長や安全・安心で豊かな国民生活の実現は、今までも、そしてこれからも国土交通行政に携わる者のミッションである。国土交通省のトップとして国土づくりに携わる立場から、我が国が現在おかれている状況とそれへの対応、未来の国土づくりの可能性とそれを担う将来のシビルエンジニアへの期待を語る。

生産性向上を通じた経済成長戦略

守山 宏道 Hiromichi Moriyama

経済産業省 地域経済産業グループ 地域産業基盤整備課長

プロフィール 1995年通商産業省入省。2006年コロンビア大学国際公共政策大学院修了(公共経営学修士)、外務省在フランスOECD日本政府代表部一等書記官、資源エネルギー庁国際エネルギー戦略室長、内閣府宇宙戦略室参事官、経済産業省サービス政策課長を経て、2018年より現職。

講義概要 我が国経済は、世界経済の活力の積極的な取り込み、少子高齢化や第4次産業革命への対応等を図りつつ、安定的成長を実現していくことが課題。特に、人手不足問題が顕著になっている中、働き方改革も実現していくためには、我が国産業の生産性の向上が不可欠。政府としては、平成30年度から3年間を政策集中期間として、生産性の向上に取り組んでいる。本講義では、その具体的取り組みの背景や方向性について扱う。

第2回

6/1
【土】

13:30~16:30

国際協力の考え方、およびその実践を通じたグローバル人材の必要要素について

坂本 威午 Takema Sakamoto

(独)国際協力機構(JICA) 中東・欧州部長

プロフィール 1989年、海外経済協力基金(OECF)(現JICA前身)に就職。2018年8月から現職。この間、開発途上国への政府開発援助(ODA)業務に従事。東アジア・南アジア・中東等幅広い地域担当の他、運輸・情報通信分野総括、広報、国会対応、組織運営等多様な実務経験。在外経験は、中国、イラク、インドと10年超。トアはノックしなければ開かない、との持論。福岡県出身。

講義概要 日本国内における課題も多々ある中でも日本はなぜ遠い国への国際協力を推進しているのか、そして、どのような思想・理念で国際協力を行うのか。また、国際協力の実践を通じて、グローバル人材として求められる要素はどのようなものが重要と考えられるか。こうした点について、具体的な事例も紹介しつつ、受講者とともにインタラクティブに議論し、思索を深める。

モビリティ革命とMaaS(マース)

牧村 和彦 Kazuhiko Makimura

一般財団法人 計量計画研究所 理事 兼 研究本部企画戦略部長

プロフィール 1990年一般財団法人計量計画研究所(IBS)入所。東京大学博士(工学)。愛知県出身。都市・交通のシンクタンクに従事。将来のモビリティビジョンを描くモビリティデザイナー。代表的な著書に、「MaaS～モビリティ革命の先にある全産業のゲームチェンジ(日経BP)」、「バスがまちを変えていく～BRTの導入計画作法(IBS出版)」等多数。

講義概要 モビリティ革命の本命と言われる「MaaS: Mobility as a Service(マース)」。様々な移動手段を一つに統合、スマホ一つでルート探索から予約、決済までが行え、「移動の所有から利用へ」をパッケージとして商品化した、究極の交通サービスがMaaSです。本講義では、MaaSが私たちの都市やライフスタイルにどのようなインパクトを与えるのか、必要となる基礎を学んでいただきます。

第3回

6/8
【土】

13:30~16:30

総合商社とサステナビリティ経営

島崎 豊 Yutaka Shimazaki

丸紅(株) 執行役員 秘書部長 兼 広報部長

プロフィール 1982年丸紅(株)入社。海外におけるインフラ施設の建設および投資事業に従事し、特に上下水等の水ビジネスを先駆けて推進。財界・社外活動のサポート業務や社業の広報活動に従事。日本創生委員。慶応義塾リーディング大学院特任教授。日本秘書協会理事。東京都出身。学生時代: 体育会グランドホッケー部所属。趣味: スイミング、ゴルフ。

講義概要 「環境、社会と共存するシステムをいかに築くか」というサステナビリティへの対応は、いま、地球規模での優先課題になっている。環境問題や人権への配慮などサステナビリティに対する姿勢が企業を評価する際の重要な判断基準になりつつある中、世界で展開する総合商社がどのようにサステナビリティに向き合っているのか、そのビジネスを通じて取組を紹介する。

経済を読み解く鍵

～ニュースという「窓」から見る世界

岡部 央 Hiroshi Okabe

(一般社団法人)共同通信社 経理局長

プロフィール 1983年に共同通信に入社し、日銀、財務省、首相官邸、経済産業省、外務省などで経済政策を担当。1997年から3年間、ワシントン特派員として、アジア金融危機などの取材を経験した。経済部長、編集局次長、大阪支社長などを経て、2018年6月から現職。日本の「今」を、海外に情報発信する英文雑誌の編集委員も務めた。京都市出身。

講義概要 「日本は戦後最長の景気拡大が続いているって言うけど、実感が乏しいのはどうして」「米中が貿易問題で衝突する背景には何があるの」。経済ニュースには、いくつもの「？」があるのではないのでしょうか。経済の動きと背景を理解することは、社会で活躍していくために不可欠な教養の一つです。経済ニュースを、どう読み、理解していけばいいのか。最新の経済動向を踏まえながら、経済を読み解く「鍵」を解説します。

第4回

6/15
【土】

13:30~16:30

国際秩序の変容と産業界の対応

太田 誠 Makoto Ohta

21世紀政策研究所 事務局長

プロフィール 1986年経団連事務局入局。国際経済本部調査役(北東アジア、ロシア担当)、産業政策本部次長(産業政策、国際物流政策担当)、国際協力本部副本部長(韓国担当)を経て、2012年より現職。1991年～95年ソウル駐在。専門は李氏朝鮮の外交思想と行政過程論。2014年東北大学より博士号(学術)を取得。

講義概要 国際社会を支えてきた自由貿易体制、民主主義体制など既存の秩序・価値が、現在、「分断」「分裂」という形を伴って顕著に変容しつつある。そうした中、日本にも従来とは全く異なる対応が求められている。日本が置かれた現状をいかに捕捉し対処すべきか。本講義では、産業界を国際社会の主要主体のひとつに位置づけ、産業界の視点から米国、中国、欧州など主要国・地域の動向を説明するとともに、課題解決に向けた対応も検討する。

世界都市東京、都市開発の潮流

雨宮 克也 Katsuya Amemiya

三井不動産(株)開発企画部環境創造グループ グループ長

プロフィール 1987年4月、三井不動産(株)入社。郊外および都市の開発プロジェクトの企画、事業推進に従事してきた。主な担当プロジェクトにらぽーと横浜や東京ミッドタウンなどがある。また並行して、鑑定企画室、スマートシティ企画推進部、三井不動産レジデンシャル(株)を兼務し、都市計画や基盤整備の分野で幅広く業務を行っている。趣味は街歩き(国内外どこでも)、DIY、読書。

講義概要 成熟期の世界都市、東京。都市計画と都市開発に求められる社会的要請は量から質に明らかに変化しています。そして都市計画の実現手段である具体の規制と事業は企業と地域社会に委ねられる傾向にあります。この潮流の中、今東京では社会基盤の整備を含む都市の機能更新としての都市開発が進んでいます。いくつかのケースを「企業と地域との連携」という視点で提示します。皆さんとの活発なディスカッションを期待します。

第5回

6/22
【土】

13:30~16:30

秋AB 1G26031

社会基礎学Ⅱ－「グローバル化」と「地方の活性化」に

オーガナイザー教員 ● 坪内 孝司 (システム情報系・教授、教育企画室長) 他

第1回
10/5
【土】
13:30~16:30

【導入講義】連続リレー講義の意味・意義と狙い

三浦 潔司

Kiyoshi Miura

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会(JAPIC) 常務理事

プロフィール 1988年新日本製鐵(株)入社。厚板営業部に在籍し、建築・土木、造船、建設機械、産業機械等幅広い分野への営業を担当。2011年より5年間、(株)富士鉄鋼センターにおいて経営を担う。2016年より現職。

【パネルディスカッション】【第1部】

グローバル化とは何か?グローバル化の中で日本は?

【パネルディスカッション】【第2部】

学生は何を学び、何を身に付けるべきか?

石川 貴之

Takayuki Ishikawa

パネリスト

(株)日建設計総合研究所 理事 上席研究員

プロフィール 1987年日建設計入社。京セラドーム周辺、なんばパークス開発等の大規模都市開発業務に従事。2008年より(株)日建設計総合研究所にて東アジアを中心に低炭素都市業務に従事し、近年は官民連携の海外展開支援の仕事を中心にロシアにおけるスマートシティ計画にも携わっている。山口県出身。学生時代はバスケットボール一色。現在は週一のジム通いで体型をかるうじて維持。

三浦 潔司

Kiyoshi Miura

パネリスト

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会(JAPIC) 常務理事

プロフィール 1988年新日本製鐵(株)入社。厚板営業部に在籍し、建築・土木、造船、建設機械、産業機械等幅広い分野への営業を担当。2011年より5年間、(株)富士鉄鋼センターにおいて経営を担う。2016年より現職。

講義概要 グローバル化とは何か?日本経済の諸課題を浮き彫りにした上で、安全保障、資源、エネルギーなど様々な観点から議論を進め、日本の進むべき未来を論じる。グローバル人材とは何か?産官学の第一人者たちが次世代のリーダーに必須となる素養について論じ、この講義で学んで欲しいことを明確化する。



平石 和昭

Kazuaki Hiraishi

パネリスト

(株)三菱総合研究所 参与/プラチナ構想ネットワーク 事務局長

プロフィール 1984年東京大学工学部土木工学科卒業。同年株式会社三菱総合研究所に入社。地域開発、交通計画、天然ガスパイプライン計画、海外研究事業、マクロ経済の各分野業務を歴任。MRIリサーチアソシエーツ副社長を経て、現在はプラチナ構想ネットワーク事務局長。趣味はゴルフ、テニス、音楽鑑賞。博士(工学)、技術士(建設部門)。

坪内 孝司

Takashi Tsubouchi

コーディネーター

筑波大学教員 システム情報系教授/教育企画室長

プロフィール 1994年より筑波大学で教えている。本学出身。ロボット工学、特に自律移動ロボットやその関連技術の産業転用応用が専門。本リレー講義には教育企画室長として関わっている。神奈川県出身。主な著書に「はじめてのロボット創造設計」をはじめとする3部作があり、2009年に文部科学大臣表彰科学技術賞(理解増進部門)を受賞。趣味:古典西洋音楽の合唱やフルート、リコーダー演奏、庭いじり、ほかいろいろ。

さいはての地域経営

泉谷 満寿裕

Masuhiko Izumiya

珠洲市長

プロフィール 早稲田大学政治経済学部政治学科卒業。1987年野村證券株式会社に入社。1995年4月に退社し、家業の泉谷菓子舗を継ぐべく珠洲市に帰る。青年会議所やNPOを通じ、地域おこし活動に傾注。2000年の珠洲市長選挙に立候補するも落選。その後、NPOすず交流ビューロー理事長、珠洲生必株式会社社長などを経て2006年の珠洲市長選挙に初当選。現在4期目。

講義概要 石川県能登半島の先端に位置する珠洲市。昭和29年の市政発足時には人口が約3万8千人だったが、現在は約1万5千人まで減少。少子高齢化と人口減少が著しく進む中、移住・定住の促進に向けて、地域のあらゆる資源を活かし市民と行政がともに取り組む「地域経営」を押し進めてきた。さらに、珠洲市の魅力を高めるために、2017年に奥能登国際芸術祭を開催。地方創生に向けた具体的な取り組みから、自治体行政の現状を考える。

自然資本を活用した持続可能な企業活動と地域のあり方

石崎 晶子

Akiko Ishizaki

パシフィックコンサルタンツ(株) 社長室兼戦略推進部

プロフィール 2003年パシフィックコンサルタンツ株式会社入社、環境・エネルギー分野の部署にて環境関連計画・地球温暖化対策・生物多様性分野のコンサルティング業務に従事。その後、新事業企画、市場創出に関わる部署に異動、地域創生やプロジェクト化支援等に関わり、2018年より現職。出身は岡山県。趣味は仕事と子育て(3人の息子を追い回す)。座右の銘は「死ぬこと以外はカスリキズ!」

講義概要 私たちの生活、企業活動、地域は、自然資本(生物多様性)と生態系サービスなくしては持続できない。自然資本をどのように活用するかは、グローバルが進む企業活動においてはリスクマネジメントにもなり、人口減少が進む地域では、地域創生の切り札になっている。その現状と事例を紹介しながら、皆さんと共に持続可能な企業活動と地域のあり方について考えたい。

第2回
10/12
【土】
13:30~16:30

貢献できる輝く人材の育成



日本外交の現状と課題

森 健良 *Takeo Mori*

外務省 外務審議官

プロフィール 1983年外務省入省、在ドイツ日本国大使館参事官、国際法局条約課長、外務大臣秘書官、北米局北米第一課長、総合外交政策局安全保障政策課長、総合外交政策局総務課長、在アメリカ合衆国日本大使館公使、経済外交担当大使、北米局長などを歴任し、2018年1月より現職。東京都出身。趣味：ゴルフ、テニス。

講義概要 中国が台頭し、米国やヨーロッパの政治が大きく変動する中で、我が国の外交が直面する課題について紹介する。

企業経営の現状・課題と戦略

十河 英史 *Eiji Sogoh*

日本製鉄(株) 執行役員 人事労政部長

プロフィール 1989年新日本製鐵(株)(現・新日鐵住金(株))、2019年4月より日本製鉄(株)入社。本社および複数製鉄所において営業、人事・総務等を担当後、2017年4月より薄板営業部長、2019年4月より執行役員人事労政部長。

講義概要 本講義では、下記を中心に紹介し、日本のものづくりが目指す成長戦略について考察してみたい。／①「鉄」という素材の多様な特性・魅力／②オイルショック・プラザ合意以降の超円高・リーマンショックなどの幾つもの危機を日本の鉄鋼業が如何にして乗り越えてきたかの事例／③今後想定される日本鉄鋼業を取り巻くグローバル化への対応・CO2問題・少子高齢化等の課題への取組み

第3回

11/9
[土]

13:30~16:30

我が国の通商政策の現状と課題

松尾 剛彦 *Takehiko Matsuo*

経済産業省大臣官房審議官(通商政策局担当)

プロフィール 1988年4月通商産業省(現・経済産業省)入省、日本政府経済協力開発機構(OECD)代表部参事官、国際エネルギー機関(IEA)事務局長補佐官、内閣参事官、経済産業省大臣官房会計課長、電力・ガス取引監視等委員会事務局長などを経て、2017年8月より現職。

講義概要 中国を含む新興国の台頭、デジタル化の進展等が進む中で、米中間の貿易面での緊張の高まり、ブレクジット等、世界経済の不透明性が高まっている。こうした中で、日本がこれまで講じてきた、経済連携協定等を含む通商政策の考え方や、これから取り組むべき課題について議論する。

日本の安全保障環境と防衛政策

鈴木 敦夫 *Atsuo Suzuki*

防衛省 整備計画局長

プロフィール 1985年防衛庁入庁。米国立大学国家戦略研究所客員研究員、運用局運用課長、運用企画局国際協力課長、防衛政策局調査課長、防衛政策局防衛政策課長、大臣官房米軍再編調整官、情報本部副本部長、防衛政策局次長、統合幕僚監部総括官、政策立案総括審議官などを経て現職(いずれも当時の名称)。

講義概要 現在、我が国を取り巻く安全保障環境は、極めて速いスピードで変化している。その中にあって、我が国が独立国家としての責任をしっかりと果たして行くことこそが、我が国の安全保障の基軸である日米同盟の抑止力・対処力を一層強化し、安全保障協力を戦略的に進めていくための基盤となる。特別な軍事知識等は不要。時事問題を扱いながらわかり易く解説したい。

第4回

11/23
[土]

13:30~16:30

地方自治の重要性とは何か？

森 民夫 *Tamio Mori*

前全国市長会 会長／前長岡市長

プロフィール 1975年建設省(現国土交通省)入省、東京ドームや恵比寿地区開発等のビッグプロジェクトに携わる。茨城県住宅課長、阪神淡路大震災建築物危険度判定本部長、中国建設部派遣、地域住宅計画官を歴任。1997年長岡市長に初当選(以降5期)。中越地震からの復興、市町村合併、アオーレ長岡の建設等に取り組む。2009年全国市長会会長に就任(以降4期)。2016年退任。現在、一般社団法人地方行政リーダーシップ研究会代表理事を務める。

講義概要 グローバルに活躍できる人材とは、同時に現場の実態等のローカルな視点を併せ持つ人材である。国と地方の関係も同様であり、人口減少の進行、インフラの老朽化、頻発する自然災害等の諸課題に適切に対応するためには、国によるグローバルな政策と地方によるローカルな政策との調和が必要不可欠である。この視点について、長岡市の現場に即した政策、「子育ての駅」や「アオーレ長岡」等のユニークな政策を事例に解説し、地方自治の重要性について具体的に考える。

【パネルディスカッション】我が国が直面する構造改革と社会資本整備

中村 浩之 *Hiroyuki Nakamura*

株式会社みずほ銀行 産業調査部長

プロフィール 1992年京都大学経済学部卒業、日本興業銀行入行(現みずほ銀行)。審査部門、営業部などを経て、2016年みずほ銀行産業調査部副部長、2019年4月産業調査部長。産業調査部では、国内外で160名の部員を率い、約40の産業に関する調査・提言活動を統括。

中原 淳 *Jun Nakahara*

内閣府地方創生推進事務局審議官(併任)まちひとしごと創生事務局次長

プロフィール 本籍熊本県、大阪育ち、昭和62年東京大学法学部卒、同年旧建設省入省。公共事業の入札改革や道路公団等の民営化等に携わった他、ニューヨーク総領事館で米国政治、静岡県庁でまちづくりを担当。その後、人事課企画官や大臣秘書官等を経て、PFI/PPP担当の官民連携政策課長、インフラ老朽化対策等を担当する参事官、道路局総務課長、首都高速道路(株)取締役を経て現職。

森 民夫 *Tamio Mori*

前全国市長会 会長／前長岡市長

プロフィール 1975年建設省(現国土交通省)入省、東京ドームや恵比寿地区開発等のビッグプロジェクトに携わる。茨城県住宅課長、阪神淡路大震災建築物危険度判定本部長、中国建設部派遣、地域住宅計画官を歴任。1997年長岡市長に初当選(以降5期)。中越地震からの復興、市町村合併、アオーレ長岡の建設等に取り組む。2009年全国市長会会長に就任(以降4期)。2016年退任。現在、一般社団法人地方行政リーダーシップ研究会代表理事を務める。

坪内 孝司 *Takashi Tsubouchi*

筑波大学教員 システム情報系教授／教育企画室長

プロフィール 1994年より筑波大学で教えている。本学出身。ロボット工学、特に自律移動ロボットやその関連技術の産業転用応用が専門。本リレー講義には教育企画室長として関わっている。神奈川県出身。主な著書に「はじめてのロボット創造設計」をはじめとする3部作があり、2009年に文部科学大臣表彰科学技術賞(理解増進部門)を受賞。趣味：古典西洋音楽の合唱やフルート、リコーダー演奏、庭いじり、ほかいいろいろ。

第5回

12/7
[土]

13:30~16:30

春A 01ZZ515

テクノロジーとグローバルで拓く未来



未来を拓いて行く為には、グローバルに考え・行動する事と、テクノロジーの活用（特にDisruptive Technology）が重要である。

世話教員

- 野村 港二（大学院共通科目委員会委員、生命環境系・教授）
- 坪内 孝司（教育企画室長、システム情報系・教授）
- 石田 東生（特命教授）

担当教員

高原 勇 Isamu Takahara

筑波大学未来社会工学開発研究センター長 特命教授

プロフィール 1988年トヨタ自動車株式会社入社。クラウン・レクサスGSなど新型車両の設計開発を担当。グローバル開発、設計革新の全社リーダーを経て、BR-VI室長、VA開発部長、BR-未来社会工学室長を務めて現職に至る。現在は総合科学技術・イノベーション会議に係る内閣府協議会、経団連、産業競争力懇談会の委員として、次世代自動車交通基盤の研究内容を提言。筑波大学未来社会工学開発研究センター長及び特命教授。博士（社会工学）。

キーワード

自動運転、燃料電池自動車(FCV)、MaaS、Society5.0

第1回
4/24
【水】
13:00~

筑波大学

●モビリティイノベーションの社会応用（1）

前半は自動運転、燃料電池自動車、IoT車両情報に代表されるセンシング機能の技術革新について情報共有を行う。後半はその社会応用として、産業競争力懇談会に提言した社会応用の提言策を分析しながら、グループワークによる自身の考えから社会像を描く演習を実施する。

第2回
5/8
【水】
13:00~

筑波大学

●モビリティイノベーションの社会応用（2）

前半は、シェアリング、コネクティッドによるデータ利活用の可能性と筑波大学キャンパスで計画するキャンパスMaaS・医療MaaSについて情報共有を行う。後半は関係する研究論文と社会制度と新たな社会サービス創出について演習を実施する。

第3回
5/15
【水】
13:00~

トヨタ自動車(株)
都内関連施設

●講義のまとめと全体を通しての次世代自動車による自動車交通基盤に係るパネルディスカッション

第1回目、2回目等で講義した水素燃料電池自動車、パーソナルモビリティを体験することを通して、全3回の講義のまとめと全体を通しての次世代自動車による自動車交通基盤に係るパネルディスカッションを実施する。



写真は昨年度までの授業風景です。

秋AB 01ZZ513

流動化する世界とこれからの日本



混迷の度を深める世界の中で日本は？ 難局に立ち向かう皆さんの決心は？

世話教員

- 野村 港二（大学院共通科目委員会委員、生命環境系・教授）
● 坪内 孝司（教育企画室長、システム情報系・教授） ● 石田 東生（特命教授）

担当教員

西原 茂

Shigeru Nishihara 双日(株) 代表取締役 専務執行役員 経営企画、サステナビリティ推進担当本部長 兼 CCO

プロフィール 1986年日商岩井(株)入社。双日(株)石炭部長、経営企画部長、経営企画・IR・広報・情報企画・物流保険の担当役員、営業管掌役員などを経て2018年4月より現職。愛媛県松山市出身。高校・大学時代はラグビー部に所属。入社後は、路線を変えて山登りを開始。現在は、ゴルフやジョギング、禅寺での早朝座禅。また、なかなか参加できなくなっているが、10数年前から仲間と田んぼを借りての米作りを楽しんでいる。

筑波大学客員教授

講師

村井 宏人

Hirotu Murai

筑波大学客員教授
双日(株) 執行役員 自動車本部長

プロフィール 1989年日商岩井(株)入社。双日(株)自動車第二部部長、経営企画部長などを経て2016年4月より自動車本部長、2018年4月より現職。京都府出身。学生時代は、中学から大学まで常に体育会水泳部に所属し水泳三昧の日々を過ごす。入社後、先進国から途上国まで50か国超を訪問。産業機械や自動車の輸出から事業会社の経営、M&Aまで様々な経験を重ねる。

パネリスト

橋本 政和

Masakazu Hashimoto

筑波大学客員教授
双日(株) 執行役員
エネルギー・社会インフラ本部長

プロフィール 1990年日商岩井(株)入社。愛知県出身。入社後は物流部隊に配属され、初出張は2年目の西アフリカ。1000km超の行程を野宿しつつ輸送監督として走破。その後はロシア衛星通信網の構築、米国駐在中にはトヨタ生産方式の普及活動、2011年インフラ事業へ転身、鉄道や再生エネルギー事業に取り組んだ。環境・産業インフラ本部長を経て、2018年4月より現職。私生活では十数年ぶりに下手なゴルフを再開、人より多く歩き、走り回ることによって運動不足の解消中。

尾藤 雅彰

Masaaki Bito

双日(株) 執行役員
金属・資源本部長

プロフィール 1965年生まれ、静岡県出身。1988年に日商岩井入社後は、主に石炭を始めとする金属資源のトレード、開発、事業運営ビジネスに従事し、2016年から現職。学生時代はサッカー部。今でも時々おじさんサッカーを楽しんでいます。汗をかいた後のビールは最高ですが、怪我だけは避けたいところ。

キーワード

- ・世界の動きを知り、日本の位置付けを認識し、これからの自らの生きる道を探る。
- ・社会の潮流に対する知見と分析力を積み上げていく契機とする。

第1回
10/16
【水】
13:00~

筑波大学

- 自己紹介・予め配布されたアンケートに基づく発表と会話
- 講義「世界経済の変化における日本の産業論と商社活動」と全員参加による議論

第2回
11/13
【水】
13:00~

筑波大学

- パネルディスカッション
テーマ①：「自動車業界を題材としたグローバルビジネスにおける日本企業の競争力の変遷と課題」
パネラー：村井 宏人（双日(株) 執行役員 自動車本部長）
コーディネーター：西原 茂
- 事前に提起された課題と発表・議論

第3回
12/4
【水】
13:00~

双日(株)
本社21階

- パネルディスカッション
テーマ②：「インフラビジネスにおけるビジネス構築の機能と課題」
パネラー：橋本 政和（双日(株) 執行役員 エネルギー・社会インフラ本部長）
テーマ③：「日本における資源ビジネスの位置付けと課題」
パネラー：尾藤 雅彰（双日(株) 執行役員 金属・資源本部長）
コーディネーター：西原 茂

- ラップアップ・セッション（ゼミ全体の振り返り）

（17:30 ~ 双日社内カフェテリアにて双日社員も参加したカジュアルなレセプションを開催予定）

学生の声 Student's Voice



社会・国際学群 国際総合学類 山本 一葉 Kazuha Yamamoto

出席学生
の声
Student's
Voice 01

世界を舞台に活躍されている方々の聲に接することができる

将来海外での仕事を視野に入れている私は、「グローバル人材」「教養」というワードに惹かれ、「社会基礎学～グローバル人材に不可欠な教養I」を受講しました。大学生活、特に筑波大学では、社会と直に関わる場が少ないように思います。なので、各業界のフロンティアに立ち、世界を舞台に活躍されている方々の聲に接することが学内でできるのはとても貴重な機会です。

また、講義全体を通して、現在のグローバル社会に対応するだけでなく、世界を牽引している方たちのお話を踏まえ、次世代の私たちが今度はどのような社会をつくるべきかを考えることが必要だと感じました。

人間学群 心理学類 柄澤 輝 Hikaru Karasawa

出席学生
の声
Student's
Voice 02

これから生きる人材に必要な数々の教養を学べる講義

私は官界や産業界のトップになって世界に挑もうなんて考えていません。ごく一般的な人生に安住できればいいなどと考えています。一方で現実には、専門性の高い機関による分業ネットワークを束ね、現代社会が直面する問題に最前線で挑んでいるトップリーダーが確かに存在します。その視野は当然世界を見据え、知見は学際的です。そんな方々と直接お会いし、議論できる機会は貴重です。Society5.0やSDGsなどの聞き慣れない単語が

飛び交う講義で日本の将来を考えていると、自分も最前線で共闘している気分になりました。グローバル化した現代では国際問題も身近であることを自覚し、これから生きる人材に必要な教養の数々を学べます。

生命環境学群 生物資源学類 猪島 悠太 Yuta Inoshima

出席学生
の声
Student's
Voice 03

机上の空論ではなく実際の世界の知見を得られるまたとないチャンス

私がこの講義を受講するに至ったのは、通常の講義とは異なり外部のトップリーダーによるオムニバス形式の講義であることに興味を抱いたからです。「経済」や「森林」といった1つの分野を多面的に考察するのではなく、「グローバル」をキーワードに多事象をみる講義は自分にとって新鮮でした。それぞれの専門家が講義してくださるため、机上の空論ではなく実際の世界の

知見を得られるまたとないチャンスにもなります。一見遠く見える分野を組み合わせる考えるのは鍵になると改めて思いました。これからのモチベーションを高めるきっかけともなる密度の高い講義です。

システム情報工学研究科 社会工学専攻 社会工学学位プログラム 田中 皓大 Kota Tanaka

出席学生
の声
Student's
Voice 04

みなさんも単位以上の価値を体感しに来てみては？

本講義は土曜開講ですが、それは普段平日にお呼びするのが難しいような重役の方々をお迎えしているからです。そんな各界のトップリーダーが、これまでどのような信念を基に社会と関わってきたのかを知ること、さらにそれを現在の社会問題や近未来の展望などと絡めて、自由に質疑やディスカッションのすることが本講義の魅力だと思います。その点では、就職活動

や大学院などの進路を決める上でも総合的に参考になる機会だと感じます。みなさんも、単位以上の価値を体感しに来てみてはいかがでしょうか。

人文・文化学群 人文学類

足利 真優 *Mayu Ashikaga*出席学生
の声
Student's
Voice 05

学生生活で何を得心か、将来的にどう生きたいか、自分自身を見直す機会に

この講義の魅力は、土曜日の教室に行くだけで日本各地で各業界の最前線に立ち日々奮闘している講師の方々にお会いできるだけでなく、私たち学生のために熱弁を奮ってください、非常に贅沢な時間を過ごす事ができる点にあると思います。地方自治から外交、企業経営など様々な分野で活躍している方々のお話を聴くことは即ち、どのような学生生活を送り、その中で何を得心か、また将来的にどう生きたいのか、自分自身を見直す良い機会でもあります。講義中に質疑応答の時間

は勿論ありますが、更なる質疑や議論を深めたい場合、講義の終了後には講師の方々と直接個人的にお話をできる機会もあります。私は1年次と4年次にこの講義を受講しましたが、多様なジャンルの第一人者の方々のお話を沢山聞いたことは、この大学生活の中で得られた財産であったと思います。多くの人は人生においての学生生活終盤であり、最後の学生生活を有意義に過ごす為にも是非、この講義を受講してみたいかがでしょうか。

理工学群 応用理工学類

落合 祐介 *Yusuke Ochiai*出席学生
の声
Student's
Voice 06

将来設計の指針の一助となること間違いなし

日本の総人口が減少しており2055年には1億人を割り込むと言われている今、地方の衰退、移民問題、マーケットの縮小など、多くの課題を耳にするようになってきました。それらの課題に対して最前線に取り組んでいる方々の貴重な話を伺えるまたとない機会と感じ、この講義を受講しました。「グローバル化」というキーワードを軸にして私達が目指すべき将来像や、その実

現に向けて将来を担っていく私達が学生の今何を学び、考えればよいかについて多角的な視点を与えてくれる毎回の講義はとても刺激になりました。これから先、激しく変化する世の中を力強く生きていくために不可欠な将来設計の指針の一助となること間違いないので、是非受講してみたいかがでしょうか。

情報学群 知識情報・図書館学類

齊藤 幸乃 *Yukino Saito*出席学生
の声
Student's
Voice 07

1つの科目で多くの情報を得られることが、この講義の最大のメリット

私がこの講義を受講すると決めた理由の一つに、幅広い分野の講師の方々からお話をうかがうことができるというものがありました。リレー講義を受けていく中で、時には、少し難しいというように感じるテーマもありました。けれども受講を終えた今、普段TVで流し聞いていた、あるいは新聞で流し読んでいた日本

だけではない、グローバルな舞台で起こる出来事の記事について、「この話題を知っている」と思えるようになり、少しばかり自分の見聞が広がったという実感があります。このように1つの科目で多くの情報を得られることが、この講義の最大のメリットだと思います。

芸術専門学群

横堀 玲奈 *Rena Yokohori*出席学生
の声
Student's
Voice 08

これから社会で生きていく際に役立つ講義

講義についてはパンフレットを見て知り、オムニバス方式であることや、一消費者として普段利用している企業の方が講義してくださること、また産業界官界の第一線で活躍されている方からお話を聞けるということに魅力を感じて受講を決めました。講義を受け、興味のある女性の社会進出に関する状況を現場のリアルな声を聞くことにより、自分を取り巻く社会についてより一層深く考えてみたくなりました。また、「グローバル社会」とい

うものについて、新聞やテレビなどのメディアを通して見聞することはあっても、実際の現場の話などを直接聞くことは稀有な機会であり、大変実りのある講義だと思いました。本講義の内容はこれから社会で生きていく際に役立つと思います。特に就職活動を始める時にはこの講義で聞いた知識を役立ててみたいと思います。

学生の声 Student's Voice



人間総合科学研究科 教育学専攻

野村 祐介 Yusuke Nomura

出席学生
の声
Student's
Voice 09

全体を通して非常に質の高い講義

技術革新が著しい現代社会において、具体的にどのようなことが生じているかを学びたいという知的好奇心から高原ゼミを受講しました。講義では自動運転技術や燃料電池自動車それ自体に加え、それらの社会応用可能性について広く深く学ぶことが出来ました。特に現在の生活枠組みを根底から変革する可能性を秘めたトヨタ自動車の「e-Palette Concept」について、

トヨタ自動車の社員でもある高原先生と直接お話し出来たことは非常に有意義でした。加えて他の受講生との議論を通して得た学びも多く、全体を通して非常に質の高い講義であったと感じています。

システム情報工学研究科 社会工学専攻 サービス工学学位プログラム

野口 宇宙 Takahiro Noguchi

出席学生
の声
Student's
Voice 10

産学官融合の最前線を考えることができる

私がこの講義を受講した理由は、将来の日本像を考える上での産学官連携というキーワードに興味を惹かれたからです。本講義は、産業界を牽引する先生から前提知識となる講義を受けた上で、先生と学生を交えたディスカッションを通して幅広く未来の社会像について考えられることが特徴だと考えます。通常の講義では、自分の専門分野内での発想に偏りがちですが、

本講義では様々な分野を背景に持つ学生、さらには社会人学生も参加しており、広い知見を得ることができました。また、ディスカッション能力の向上だけでなく、自分の専門分野がどのように未来社会に結びつくのかを考える良い機会にもなりました。

生命環境科学研究科 生物資源科学専攻

貴志 雅哉 Masaya Kishi

出席学生
の声
Student's
Voice 11

世界を相手にビジネスをしている方々の生の声を聞き、議論が出来る機会

私は「価値観や文化の異なる世界の人々」を相手にビジネスをしている方々の考え方を学び、議論を交わしてみたいと思い、この講義を受講しました。講義は毎回、グローバルビジネスの現場のお話を聞くことができ、非常に刺激的なものでした。また、自分の専攻の講義だけでは絶対に得られない広い知見と、今後の日本経済を真剣に考える良い機会を得ることが出来ました。

今後は、ここでの経験を就職活動や研究に活かしていきたいと考えています。世界を相手にビジネスをしている方々の生の声を聞き、議論が出来るという機会は滅多にないことだと思います。世界で活躍したい、日本を引っ張っていききたいと考えている方はぜひ受講してみてください。

グローバル教育院 ライフイノベーション学位プログラム

岩田 望 Nozomu Iwata

出席学生
の声
Student's
Voice 12

自分の将来を見つめなおすことができた

私はこれから就職活動を始める中で総合商社という職業に漠然と興味を抱いていました。しかし、その業態や社員の生の声を聴くことはできていなかったため情報を得る良い機会と考え受講を決めました。講義の中では総合商社や双日の社会での立ち位置や、そこで働いている方々の現場のお話を聞くことができ、世の中での総合商社の現在位置や働き方を詳しく知ることがで

きました。また、現状の世界課題やそれを総合商社がどのように解決していかなければならないのかをディスカッションすることで、自分が将来向かっていきたい方向性も見えてきました。以上のように、総合商社のことを知るだけでなく、自分の将来も見つめなおすことができたので受講してよかったと感じております。

Faculty Member's Voice 教員の声

教員の声
Faculty Member's Voice 01

知的でエキサイティングな土曜の午後

皆さん、知的でエキサイティングな土曜の午後は春日キャンパスで過ごしてみませんか? 「社会基礎学」というこの科目名からは、きっと社会系の講義だろう、自分の専門分野とは直接関係ないし... という印象をもつかもかもしれません。でも、講義に出席してみたら、その印象は徐々に変わり、自分の専門分野の社会を通してのかかわりがおぼろげながらもわかってくるのではないかと思います。そして、知識のすそ野が格段に広がったことに気づくと思います。

これから各自が専門とすることになる学問分野は、およそ地球上の人の営みと関連します。

人の営みは社会を形成しますから、まさにここに光を当てて、産業界・官界で活躍されている世界に挑戦するトップリーダーからの現代のホットでリアルな話を、実体験を交えながら聴くことができるのは、またとない機会です。普段、新聞やテレビのニュースで見聞きする問題に日々接しておられる方々から直接に聞けるのです。講師の先生方とのディスカッションの時間も豊富に用意されています。積極的に自分の意見を表明して議論に参加しませんか? 教室でお会いしましょう!



教育企画室長
システム情報系教授

坪内 孝司

Takashi Tsubouchi

教員の声
Faculty Member's Voice 02

特命教授

石田 東生

Haruo Ishida

大学院 Advanced Discussion Course への誘い

大学院 Advanced Discussion Course はトヨタ自動車・BR 一未来社会工学室長の高原勇講師と双日・代表取締役の西原茂講師という業種は異なるけれどもともに海外経験豊かなビジネスリーダーお二人をお迎えし、日本が抱える課題、その中で若い力に期待するものを共に考え、意見を交換する場です。商社マンとしての世界経済の見方と国際感覚、そしてその中での日本の針路への洞察、技術系経営者としてのテクノロジーとイノベーション

に向けた熱意は私自身にとってもワクワクするものです。課題も多く出され少し大変かもしれませんが、それは自らの考えを深め、分かりやすく説明するという現代人にとっての必須のスキルの涵養に有効です。またお二人の広い交友関係から多彩なゲストスピーカの話の聞けることも大きな魅力です。自分を鍛え、さらに成長するため、そしてクラスを共に作り上げるために教室にいらっしゃいませんか。

大学院共通科目、特にアドバンスト・ディスカッションコースでリーダーになるトレーニングを

大学院修了者が社会の需要に的確に応えるためには、大学院で身につける学問や実務における高い専門能力とともに、豊かで逞しい人間力が必要になります。本学では、知識の教授に偏らない大学院教育を実現するため、コミュニケーション能力や高い倫理感、グローバル社会の中にあって本質を考えぬく力、キャリアについて考える力などを修得するために、大学院共通科目を開設しています。アド

バンスト・ディスカッションコースは、企業トップとして世界をリードしてきた講師が、現実とどう向き合い、将来をどう見据えてきたか、いつどのような決断をしてきたかなど、知識とスキルの使い方を実践的に身につけられる講義です。大学院共通科目、特にアドバンスト・ディスカッションコースでリーダーになるトレーニングを始めてください。

教員の声
Faculty Member's Voice 03

大学院共通科目委員長(2018)
生命環境系教授

野村 港二

Koji Nomura

世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる 連続リレー講義

<p>総合科目 (学士基盤科目)</p> <p>春AB</p> <p>社会基盤学Ⅰ 「グローバル化」と「地方の活性化」に 貢献できる輝く人材の育成</p> <p>オーガナイザー 五十嵐 浩也</p>	第1回 5/18 【土】 14:00~17:00	<p>【導入講義Ⅰ】筑波大学におけるグローバル人材育成方針</p> <p>徳永 保・坪内 孝司</p> <p>【導入講義Ⅱ】連続リレー講義の意味・意義と狙い</p> <p>三浦 潔司</p> <p>【パネルディスカッション】【第1部】 グローバル化とは何か？グローバル化の中で日本は？</p> <p>【パネルディスカッション】【第2部】 学生は何を学び、何を身に付けるべきか？</p> <p>吉村 麻央・中村 宏之 三浦 潔司・徳永 保</p>	
	第2回 6/1 【土】 13:30~16:30	<p>未来の国土づくりを担う皆さんへ</p> <p>森 昌文</p> <p>生産性向上を通じた経済成長戦略</p> <p>守山 宏道</p>	
	第3回 6/8 【土】 13:30~16:30	<p>国際協力の考え方、およびその実践を通じた グローバル人材の必要要素について</p> <p>坂本 威午</p> <p>モビリティ革命とMaaS（マース）</p> <p>牧村 和彦</p>	
	第4回 6/15 【土】 13:30~16:30	<p>総合商社とサステナビリティ経営</p> <p>島崎 豊</p> <p>経済を読み解く鍵～ニュースという「窓」から見る世界</p> <p>岡部 央</p>	
	第5回 6/22 【土】 13:30~16:30	<p>国際秩序の変容と産業界の対応</p> <p>太田 誠</p> <p>世界都市東京、都市開発の潮流</p> <p>雨宮 克也</p>	
	第1回 10/5 【土】 13:30~16:30	<p>【導入講義】連続リレー講義の意味・意義と狙い</p> <p>三浦 潔司</p> <p>【パネルディスカッション】【第1部】 グローバル化とは何か？グローバル化の中で日本は？</p> <p>【パネルディスカッション】【第2部】 学生は何を学び、何を身に付けるべきか？</p> <p>石川 貴之・平石 和昭 三浦 潔司</p>	
	第2回 10/12 【土】 13:30~16:30	<p>さいはての地域経営</p> <p>泉谷 満寿裕</p> <p>自然資本を活用した持続可能な企業活動と地域のあり方</p> <p>石崎 晶子</p>	
	第3回 11/9 【土】 13:30~16:30	<p>日本外交の現状と課題</p> <p>森 健良</p> <p>企業経営の現状・課題と戦略</p> <p>十河 英史</p>	
	第4回 11/23 【土】 13:30~16:30	<p>我が国の通商政策の現状と課題</p> <p>松尾 剛彦</p> <p>日本の安全保障環境と防衛政策</p> <p>鈴木 敦夫</p>	
	第5回 12/7 【土】 13:30~16:30	<p>地方自治の重要性とは何か？</p> <p>森 民夫</p> <p>【パネルディスカッション】 我が国が直面する構造改革と社会資本整備</p> <p>中村 浩之・中原 淳 森 民夫</p>	
<p>総合科目Ⅲ</p> <p>秋AB</p> <p>社会基盤学Ⅱ 「グローバル化」と「地方の活性化」に 貢献できる輝く人材の育成</p> <p>オーガナイザー 坪内 孝司 他</p>			

世界に挑む産業界トップリーダーによる 大学院アドバンスト・ディスカッションコース

春 A テクノロジーと グローバルで拓く未来 担当教員 高原 勇	第1回 4/24 [水] 13:00~	モビリティイノベーションの社会応用 (1)	高原 勇
	第2回 5/8 [水] 13:00~	モビリティイノベーションの社会応用 (2)	高原 勇
	第3回 5/15 [水] 13:00~	講義のまとめと全体を通しての次世代自動車による 自動車交通基盤に係るパネルディスカッション	高原 勇 他
秋 AB 流動化する世界とこれからの日本 担当教員 西原 茂	第1回 10/16 [水] 13:00~	自己紹介・予め配布されたアンケートに基づく発表と会話	西原 茂
		講義「世界経済の変化における日本の 産業論と商社活動」と全員参加による議論	
	第2回 11/13 [水] 13:00~	パネルディスカッション テーマ①:「自動車業界を題材としたグローバルビジネスにおける 日本企業の競争力の変遷と課題」	西原 茂 村井 宏人
		事前に提起された課題と発表・議論	
	第3回 12/4 [水] 13:00~	パネルディスカッション テーマ②:「インフラビジネスにおけるビジネス構築の機能と課題」 パネルディスカッション テーマ③:「日本における資源ビジネスの位置付けと課題」	西原 茂 橋本 政和 尾藤 雅彰
		ラップアップ・セッション	

世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる
連続リレー講義

総合科目（学士基盤科目）・総合科目Ⅲ

大学院共通科目

2019

世界に挑む産業界トップリーダーによる
大学院アドバンスト・ディスカッションコース



筑波大学
University of Tsukuba